ほたるの川床

2008.5-2009.5

所在地	岐阜県美濃市曽代88 岐阜県立森林文化アカデミー地内
建築面積	38.84㎡(11.76坪)
延床面積	17.10㎡(5.18坪)
設計・施工	岐阜県立森林文化アカデミー 木造建築スタジオ 永田 敦(八期生) 相知 正人(八期生) 前西 千寿香(八期生) 諸藤 仁美(八期生) 三澤 文子(教授) (～2009.3) 富田 守泰(教授) 廣田 桂子(准教授)(2009.4～) 小原 勝彦(講師) 辻 充孝(講師)
指導	田口 智樹(T-PLAN建築工房)
総工事日数	73日
参加総人数	145人(634人工)
総工事費	156万円

岐阜県立森林文化アカデミー　木造建築スタジオ
〒501-3714 岐阜県美濃市曽代88
TEL 0575・35・3889/FAX 0575・35・3890
Mail　studio@forest.ac.jp/URL　www.forest.ac.jp

工事記録写真
2008.5.12-2009.5.15

2008.05.26 敷地測量

2008.07.31　掘り方

2008.08.08　基礎配筋

2008.08.25　木材刻み

2008.09.16　建て方

2008.12.15　屋根板金

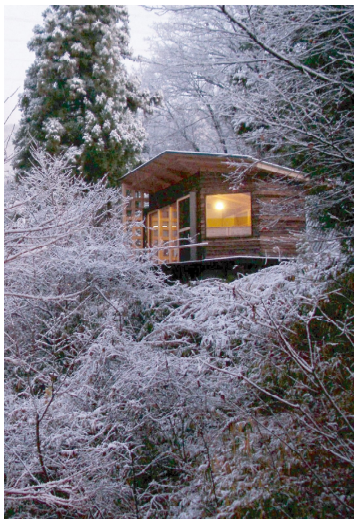
2009.05.02　内壁塗り

アカデミーカフェ　×　会議室

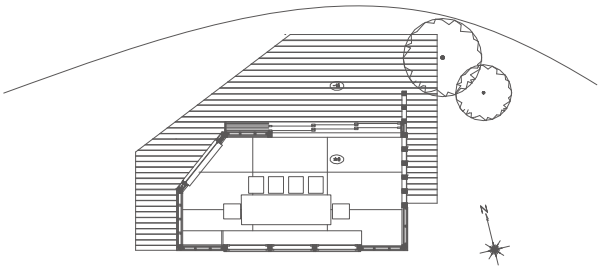
学内では気候の良い日にはデッキに面したベンチでお弁当をとる学生達の姿を見ることができる。しかしながら寒い冬には、研究会、コースの部屋にこもってしまいがちで昼食を楽しむスペースがない。一方、学生会では年度ごとの書類も増え、それらの保管とともに、会議室として機能するこじんまりとした空間の確保を望んでいる。そこで、学生会室　兼　同窓会室として使用し、さらには研究会やコースを超えて、お弁当を持ち寄り情報交換をしつつ語らうスペースとしての、アカデミーカフェを建設することになった。

ほたるの川床

建設にあたり、今ある場所を使いやすくするより、今まで使われていなかった場所を活性化させたいと考えた。校舎の南側を流れる毛鹿洞谷は、初夏にはホタルが飛び交う清流である。その側には水車のある親水広場があるものの、手入がされておらず雑草が生い茂り人が入れない状態である。親水広場の対岸斜面の上に、杉の木立に挟まれた小さな平地があった。この場所にアカデミーカフェを建設する事により、これまで使われていなかった場所に人の流れを向け、川沿いの恵まれた環境の活性化につながることを期待した。


薄雪化粧

ほたるの川床　竣工式


平面図 1/200

<建築計画>
木立のアプローチを通り、突き当たりの格子の横を抜けると、川に向かって空中に張り出したデッキに出る。このデッキは、浮遊感を出す為と、出来る限り土地に手を加えずにすむように、基礎地中梁に埋め込んだ鉄骨によって支えられている。

室内には川に向けて3枚の引込みガラス戸の大きな開口をとっており、そのままデッキへとつながり室内とデッキが一体で使える。　建物の北西の角を斜めに切り、川の流れや対岸の校舎と呼応させると共に、FIXの窓ガラスで毛鹿洞谷と桜とアカデミー校舎の美しい風景を切り取った。

外部の仕上げには手作りの焼杉板を用い、自然素材を用いつつ校舎との調和を大切に考えた。

ほたるの川床　内観